

令和 7 年度 愛媛大学社会共創学部
〔総合型選抜Ⅰ〕 小論文

1

【出題意図】

高齢社会に関する文章を基に、超高齢社会の現状や問題点、将来への展望について問うています。高校生レベルの一般知識、文章の読解力、論点を絞って文章をまとめる能力、地域の将来像に対する関心の高さ、以上の4点を評価することを意図しています。

【解答例・出題意図】

問 1（解答例）

壮年の人間は、生活の糧をえるために懸命に働く必要があった。これは子どもの母親も例外ではなかった。そのため、高齢者には子どもの相手をすることや家を守ることといった重要な役割が存在していた。子どもにとっての高齢者は、大人になるためには絶対に身につけなければならない知恵を授けてくれる大切な存在であった。（149 文字）

問 2（出題意図）

「現代社会において、コツを修得するために修行（練習）を行う必要があること」に当てはまる適切な具体例を取り上げ、その理由を文字数内に文章化して論理的に述べられるかを問うている。

問 3（解答例）

伝統社会において、高齢者は知恵を授けてくれる、それなりの地位を占める存在であった。しかし、現代社会において、知恵は生計を立てるうえで必要とされなくなった。加えて、国民経済国家を支える資質は「活力」であると断定された。そのため、「活力」が低下した高齢者に対する敬意は持たれなくなってしまった。（145 文字）

問 4（出題意図）

あらゆる年代の人々が相互に尊重しながら共生していくための地域コミュニティのあり方について、本文を参考にしつつ、適切な事例を取り上げた上で、自分の知識や経験も活用しながら自分の考えを文字数内に文章化して具体的かつ論理的に述べられるかを問うている。